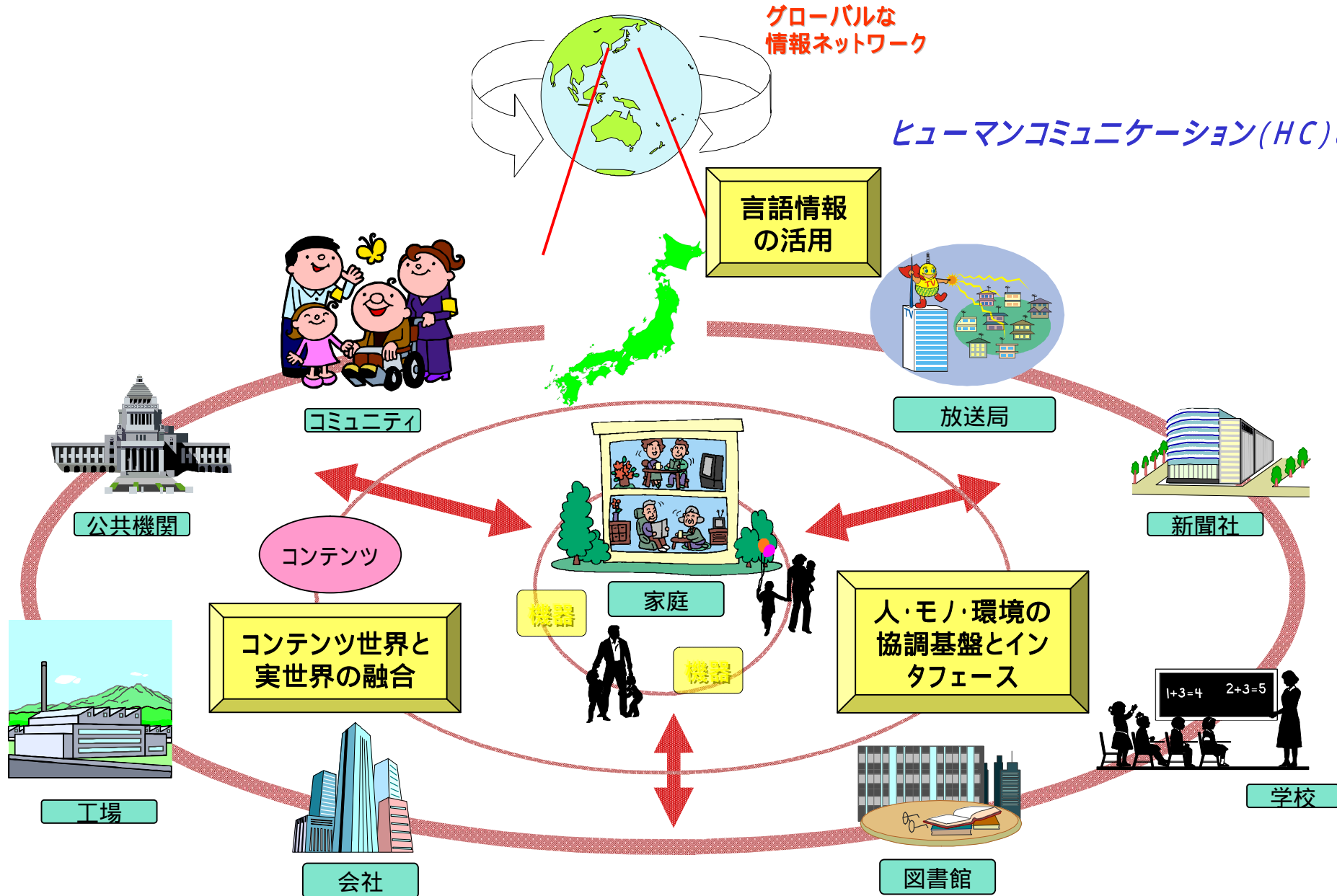


高度情報化社会におけるヒューマンコミュニケーション分科会の位置付け

グローバルな
情報ネットワーク

ヒューマンコミュニケーション(HC)とは？



ヒューマンコミュニケーション分科会

(会員 36者(H16年8月時点))

リーダー: 木戸出正繼(奈良先端大)

コンテンツ融合WG

主査: 柿元俊博(富士通研)

メンバー:

アドバンスコープ, NTT西日本,
日本原子力研究所, 野村総研,
富士通研, 富士通, 三菱電機,
リコー, 大阪大学大学院,
台湾国立交通大学

ユニバーサルユーザ 利用環境WG

主査: 丸野進(松下電器)

メンバー:

沖通信システム, 沖電気,
三洋電機, CSK, 東芝,
とめ研究所, 日本電気,
野村総研, マイクロシグナル,
松下電器, 松下電工, 三菱電機,
楽墨堂, 大阪工業大,
大阪大サイバーメディアセンター,
京大, 同志社大, 立命館大,
奈良先端科学技術大

言語情報活用システム WG

主査: 中井敏久(沖電気)

メンバー:

沖電気, シャープ,
東洋情報システム(TIS),
日本原子力研, 富士通

NICT

コンテンツ融合 プロジェクト

リーダー: 田中克己(京大/NICT)

ユニバーサルユーザ 利用環境プロジェクト

リーダー: 美濃導彦(京大/NICT)

言語情報活用システム プロジェクト

リーダー: 井佐原均(NICT)

コンテンツ融合環境WG

活動方針・目標

コンテンツ融合環境に関する情報交換，意見交換
コンテンツ融合環境の研究推進に必要な利用環境充実に向けた提案
共有コンテンツの提案，共同研究の場の提供など

H15年の活動(主なトピックス)

H15年7月～9月: WGメンバーの募集

H15年9月8日: 第1回 コンテンツ融合環境WG 上記活動目標とスケジュールを決定

H15年1月29日: 第2回 コンテンツ融合環境WG

- ・外部コンテンツの利用に関する議論を実施。e-Japan戦略 の追い風もあるが、直ぐには解決できない課題があるため、継続的に検討していくことになった。(コンテンツ借用における問題，著作権の問題など)
- ・「第2回コンピュータを利用した創造・連携・協調に関する国際会議」への参加

コンテンツ融合環境プロジェクト

目標

コンテンツの形式やメディアの種類を意識することなく、目的とするコンテンツを取得し、様々な形で閲覧・視聴できるような、人と情報と環境をつなぐ、新しい「コンテンツ融合環境」を構築する。

課題一覧

- ウェブのセマンティクスに基づくユーザの個人性を考慮したコンテンツ融合
- 3次元空間に基づくデジタルアーカイブ生成・検索技術
- 異メディアコンテンツのウェブ化と統合的閲覧方式に関する研究開発
- Webコンテンツの受動的視聴システム
- コンテンツ融合方式と統合コンテンツの閲覧・視聴システム
- クロスメディア検索可能なWebQAシステムの研究開発
- ユビキタスコンテンツ環境
- メタデータ抽出とクロスメディア検索
- マルチメディア・コンテンツ検索精度・信用度向上技術

H15年の活動(主なトピックス)

平成16年1月下旬: 第2回コンピュータを利用した創造・連携・協調に関する国際会議

(C5国際会議: Int. Conf. on Creating, Connecting and Collaborating through Computing) を共同開催

平成16年3月: 野村総研, NHK技研, リコーとそれぞれ共同研究契約(計3件)を締結

平成16年4月: メディアインタラクショングループ大幅増員(主任研究員1名, 専攻研究員: 長期7名, 短期1名)

首都大学東京, 米Viewpoint Research Institute(アランケイグループ)への委託研究に向けて調整中

ユニバーサルユーザ利用環境WG

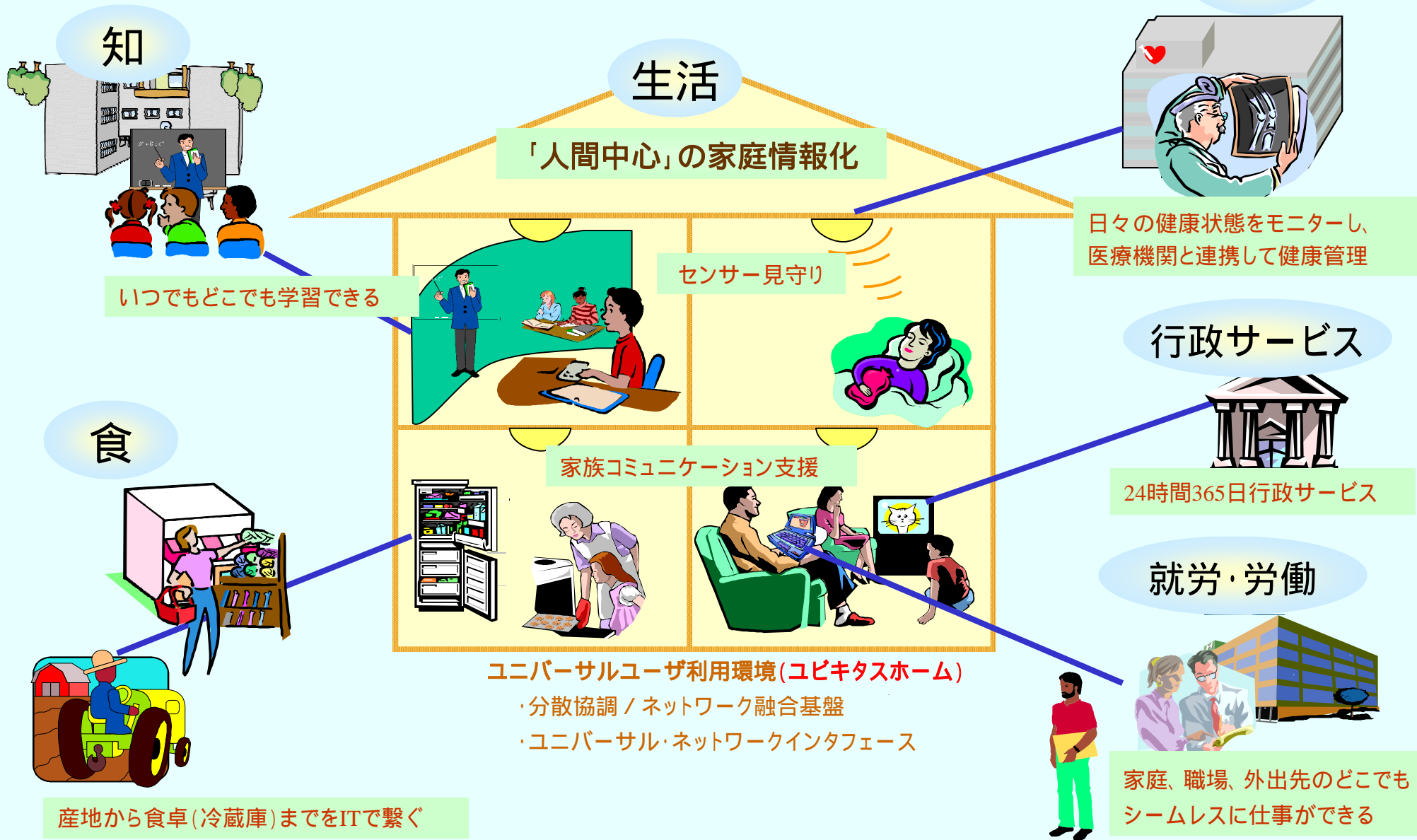
活動方針・目標

様々なユーザ利用環境に適した情報通信基盤技術の実証型研究開発プロジェクトの提案
ユニバーサルインタフェース・ユビキタス環境研究コミュニティの提案

H15年の活動(主なトピックス)

- H15年10月 WG中間答申を、CRLオープンラボ協議会HC分科会へ答申(10/2)
~H15年3月 答申を受けて、NICTにて、プロジェクト活動、
オープンラボ施設整備(ユビキタスホーム)
- H15年4月 第三回WG開催(4/14)
- 答申を受けてのオープンラボ施設、プロジェクトについて報告
 - 2004年度のWG活動について

生活を軸に、人間中心のネットワークによりe-Japan戦略を実現



ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト

目標

ユーザの振る舞い・状況等を理解し、動的に個人に適応した情報通信サービスを構築し、様々なユーザに適したインターフェースでサービスを提供するネットワークアプライアンスに関する基盤技術を研究開発する。

課題一覧

- 機能分散ユビキタス環境の構築
- ユニバーサルインタフェース技術・ロボットインタフェース技術の確立

H15年の活動(主なトピックス)

- ・プロジェクト全体会議を月1回の割合で開催している。さらに、各課題に対して検討グループを設置し、各グループが週1回の割合で検討している。
- ・2004年3月にプロジェクト関連の研究発表を、情報処理学会全国大会で16件、電子情報通信学会総合大会で4件行った。
- ・実証実験環境となる「ユビキタスホーム」が竣工した。マスメディアで紹介多数あり。
- ・5月中旬の外部への成果公開のため、機能分散協調基盤ミドルウェアと実証サービスのデモを構築中である。

言語情報活用システムWG

活動方針・目標

豊富な言語資源と高度な言語処理技術を利用した言語情報活用システム研究開発プロジェクトの
提案

言語処理研究コミュニティの形成

H15年の活動(主なトピックス)

- ・ 技術交流会の開催（4回）
 - 「ユーザインタフェースと自然言語処理の融合」（TIS）
 - 「読解機構の分析について」（シャープ）
 - 「大規模非定型文書からの情報抽出」（沖電気）
 - 「機械学習を用いた機械翻訳用モダリティコーパスの修正」（NICT）
 - 「翻訳支援システムのご紹介」（富士通）
 - 「IJCNLP04参加報告及び在北京日米研究所訪問報告」（沖電気）
- ・ 新規共同研究テーマの検討（1件）
 - 「技術資料・論文からのデータベースの構築」

言語情報活用システムプロジェクト

目標

言語を主とした知識獲得、情報検索、質問応答、翻訳（支援）などの機能を持つ総合的な技術情報活用システムを開発する。

課題一覧

- 文書読解支援インタフェースの構築
- 英文読解に関する研究
- 大規模非定型文書からの情報抽出の研究
- 翻訳支援環境の研究

H15年の活動(主なトピックス)

- NICT研究員と、オープンラボに常駐している他機関からのプロジェクトメンバーで定期的にディスカッションを行っている。(TIS, シャープ, 沖電気)
- 学会発表(言語処理学会年次大会)
 - Document Catcher: 色情報の心理的効果を用いた文書読解支援インタフェース (TIS, NICT)
 - 読解過程検定システムの構築 (シャープ, NICT)
 - 論文誌に採録 (シャープ, NICT)
 - 他に国際会議に投稿中。
- NICTと日本原子力研究所との間の共同研究契約締結手続き中。
- H16年秋に、香港において、国際フォーラム開催。

オープンラボ：産官学連携の場？

- **メリット** ヒト(アイデア、ノウハウ、パワー)
モノ(データ、設備)
カネ(材料費、共研・委託費)の**共有**
研究から実用化への道を**速く**
- **デメリット** 制限・制約・限定
“オープンラボ”の名にマッチしていない？
業界標準化への道は遠い？、オープン化？

オープンラボ：今後への展開

- **課題** スムーズ・スピーディなサポート体制
(彫刻型から粘土型への支援を)
研究現場の盛り上げ、コアリサーチャーの育成
ボトムアップの強化
研究開発の継続(基盤から応用展開へ)
人がオープンに集まる雰囲気
より多視点・多文化で(グローバル化)
- **産官学の旨みを生かした増幅型のオープンな連携を！！**
(特に、大学の活用をもっともっと)

けいはんなの活性化

- **活動提案** けいはんな連合大学院
 知識増幅型ネットワーク
 人の集まる環境・サロン・場
 個から群での相乗効果……

心ときめく、存在感のある、求心力のある、
集まれば楽しく得をした感じのする、……………